

## 指定管理者制度活用事業 評価シート

### 1. 基本事項

施設名称	川崎市立 多摩病院	評価対象年度	平成28年度
事業者名	事業者名 学校法人 聖マリアンナ医科大学 代表者名 理事長 明石 勝也 住 所 川崎市宮前区菅生2-16-1	評価者	多摩病院運営管理担当課長
指定期間	平成18年2月1日～平成48年3月31日	所管課	病院局 経営企画室

### 2. 事業実績

利用実績	<p>●多摩病院患者数等の状況</p> <p>1 入院患者の状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr> <th>延患者数</th> <th>実患者数</th> <th>1日平均患者数</th> <th>病床利用率</th> <th>平均在院日数</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">108,649 人</td> <td style="text-align: center;">9,398 人</td> <td style="text-align: center;">297.7 人</td> <td style="text-align: center;">79.2%</td> <td style="text-align: center;">10.6 日</td> </tr> </table> <p>2 外来患者の状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr> <th>延患者数</th> <th>実患者数</th> <th>1日平均患者数</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">217,001 人</td> <td style="text-align: center;">36,833 人</td> <td style="text-align: center;">806.7 人</td> </tr> </table> <p>3 救急患者の状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr> <th>救急患者数</th> <th>小児救急患者数(再掲)</th> <th>救急車搬送患者数(再掲)</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">12,591 人</td> <td style="text-align: center;">2,861 人</td> <td style="text-align: center;">4,330 人</td> </tr> </table> <p>4 患者紹介率・逆紹介率(地域医療支援病院の計算式)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">67.6%</td> <td style="text-align: center;">54.5%</td> </tr> </table>	延患者数	実患者数	1日平均患者数	病床利用率	平均在院日数	108,649 人	9,398 人	297.7 人	79.2%	10.6 日	延患者数	実患者数	1日平均患者数	217,001 人	36,833 人	806.7 人	救急患者数	小児救急患者数(再掲)	救急車搬送患者数(再掲)	12,591 人	2,861 人	4,330 人	紹介率	逆紹介率	67.6%	54.5%
延患者数	実患者数	1日平均患者数	病床利用率	平均在院日数																							
108,649 人	9,398 人	297.7 人	79.2%	10.6 日																							
延患者数	実患者数	1日平均患者数																									
217,001 人	36,833 人	806.7 人																									
救急患者数	小児救急患者数(再掲)	救急車搬送患者数(再掲)																									
12,591 人	2,861 人	4,330 人																									
紹介率	逆紹介率																										
67.6%	54.5%																										
収支実績	<p>●平成28年度 決算額(千円)</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;収入の部&gt;</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>入院収益</td><td style="text-align: right;">6,036,545</td></tr> <tr><td>外来収益</td><td style="text-align: right;">2,840,227</td></tr> <tr><td>その他の事業収益</td><td style="text-align: right;">487,585</td></tr> <tr><td>政策的医療交付金</td><td style="text-align: right;">618,229</td></tr> <tr><td>収入合計</td><td style="text-align: right;">9,982,586</td></tr> </table> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;支出の部&gt;</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>給与費</td><td style="text-align: right;">4,784,461</td></tr> <tr><td>材料費</td><td style="text-align: right;">2,170,069</td></tr> <tr><td>その他の事業費用</td><td style="text-align: right;">2,416,765</td></tr> <tr><td>指定管理者負担金</td><td style="text-align: right;">687,180</td></tr> <tr><td>支出合計</td><td style="text-align: right;">10,058,475</td></tr> </table> </td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">収支差額 収入－支出 △ 75,889</p>	<p>&lt;収入の部&gt;</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>入院収益</td><td style="text-align: right;">6,036,545</td></tr> <tr><td>外来収益</td><td style="text-align: right;">2,840,227</td></tr> <tr><td>その他の事業収益</td><td style="text-align: right;">487,585</td></tr> <tr><td>政策的医療交付金</td><td style="text-align: right;">618,229</td></tr> <tr><td>収入合計</td><td style="text-align: right;">9,982,586</td></tr> </table>	入院収益	6,036,545	外来収益	2,840,227	その他の事業収益	487,585	政策的医療交付金	618,229	収入合計	9,982,586	<p>&lt;支出の部&gt;</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>給与費</td><td style="text-align: right;">4,784,461</td></tr> <tr><td>材料費</td><td style="text-align: right;">2,170,069</td></tr> <tr><td>その他の事業費用</td><td style="text-align: right;">2,416,765</td></tr> <tr><td>指定管理者負担金</td><td style="text-align: right;">687,180</td></tr> <tr><td>支出合計</td><td style="text-align: right;">10,058,475</td></tr> </table>	給与費	4,784,461	材料費	2,170,069	その他の事業費用	2,416,765	指定管理者負担金	687,180	支出合計	10,058,475				
<p>&lt;収入の部&gt;</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>入院収益</td><td style="text-align: right;">6,036,545</td></tr> <tr><td>外来収益</td><td style="text-align: right;">2,840,227</td></tr> <tr><td>その他の事業収益</td><td style="text-align: right;">487,585</td></tr> <tr><td>政策的医療交付金</td><td style="text-align: right;">618,229</td></tr> <tr><td>収入合計</td><td style="text-align: right;">9,982,586</td></tr> </table>	入院収益	6,036,545	外来収益	2,840,227	その他の事業収益	487,585	政策的医療交付金	618,229	収入合計	9,982,586	<p>&lt;支出の部&gt;</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>給与費</td><td style="text-align: right;">4,784,461</td></tr> <tr><td>材料費</td><td style="text-align: right;">2,170,069</td></tr> <tr><td>その他の事業費用</td><td style="text-align: right;">2,416,765</td></tr> <tr><td>指定管理者負担金</td><td style="text-align: right;">687,180</td></tr> <tr><td>支出合計</td><td style="text-align: right;">10,058,475</td></tr> </table>	給与費	4,784,461	材料費	2,170,069	その他の事業費用	2,416,765	指定管理者負担金	687,180	支出合計	10,058,475						
入院収益	6,036,545																										
外来収益	2,840,227																										
その他の事業収益	487,585																										
政策的医療交付金	618,229																										
収入合計	9,982,586																										
給与費	4,784,461																										
材料費	2,170,069																										
その他の事業費用	2,416,765																										
指定管理者負担金	687,180																										
支出合計	10,058,475																										
サービス向上の取組	<p>&lt;専門医療の充実&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●消化器・肝臓内科において、C型肝炎専門外来を実施した(週2日午後枠)。</li> </ul> <p>&lt;高額医療機器の更新&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●平成28年6月に3Dマンモグラフィ1台、平成29年1月に80列CT撮影装置1台を更新した。</li> </ul> <p>&lt;指定管理者の高度医療との連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●呼吸器内科・総合診療内科・産婦人科・小児科・整形外科等の診療科が、必要に応じ聖マリアンナ医科大学病院に救急搬送を行った。</li> </ul> <p>&lt;地域医療支援病院の運営&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●登録紹介医は429名(歯科含む。)となった。</li> <li>●紹介件数は、前年度に比べ36件減少し、20,098件となった。</li> <li>●ICTを活用した地域医療連携システムが、平成28年5月から稼働した。</li> <li>●地域医療連携室における登録紹介医からの紹介受付時間を、引き続き19時まで延長した。</li> </ul> <p>&lt;救急災害医療センターの運営&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●多摩消防署救急隊等と症例検討会を定期的に開催した。</li> <li>●近隣の24時間営業の薬局と連携して、夜間・休日外来の院外処方を継続した。</li> </ul> <p>&lt;災害時医療の充実、「DMAT」の運営&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●災害時に他職種と連携する看護師を養成する研修会を6回開催し、受講した看護師全員が10月15日の災害訓練に参加した。</li> <li>●緊急時浄水装置や簡易ベッドなどの資機材を購入した。</li> </ul>																										

サービス向上の取組

●院内における各部署の防災訓練を16回実施した。

●DMAT隊員4名が、神奈川県・横須賀市合同総合防災訓練で実施された医療救護活動訓練及び東京都立川市で実施された関東ブロックDMAT技能維持研修に参加した。

<市民・患者に開かれた医療情報の発信>

●ホームページの診療科別の実績などの情報を随時更新した。

●市民健康講座を8回、ミニ市民健康講座を3回開催した。

<7対1看護体制への取組>

●手厚い看護と良質な病院経営の観点から、看護師の配置を7：1とし、病棟の特性や観察、処置、看護等の必要度の高い病棟には、夜勤者以外に遅出勤務者を配置した。

●看護職員の産休・育休・短時間勤務に対し、パート・アルバイトの看護職員を採用し、又はパートや派遣の夜勤看護助手等を採用し、看護職員の業務軽減を図り、離職の防止に努めた。

<患者の経済的負担の軽減>

●院内採用医薬品に占める後発医薬品の割合(対品目)が、平成27年度は43.2%、平成28年度は44.1%で対前年度比0.9%増加した。

<医療事故の防止及び迅速な対応>

●院内マニュアルの見直し、ポケットマニュアルの更新、医療安全管理対策委員会の院内巡視、私立医科大学相互ラウンドの受け入れ、安全対策に対する広報などを実施した。

●全職員対象の院内研修を実施するとともに、院外のセミナー等に職員を積極的に派遣した。

<院内感染の防止>

●全職員対象の院内感染対策講習会を2回開催し、看護師と他職種とをつなぐ研修会を年5回開催した。

●感染防止対策加算取得施設とのカンファレンスを年4回開催し、KAWASAKI地域制御感染協議会へ参加し、私立医科大学相互ラウンドによる相互訪問を実施した。

●感染対策の啓発の一環として、小学生を対象とした「かわさきKIDS感染セミナー」を7月30日に開催した。

<病院運営への市民参加>

●公募の市民委員を加えた多摩病院運営協議会を年2回開催し、委員の意見を病院運営に反映させた。

●ボランティア会ランパスの協力により、移動図書・折り紙教室・ロビーコンサート・受付案内など、年間311回(活動人数延527人)の活動により、多くの感謝の声を頂いた。

<環境配慮型設備等の導入>

●開院時からコージェネレーションシステム、太陽光発電設備、ジェネリンク型冷凍設備、氷蓄熱設備、排水処理設備などの環境配慮型設備を導入している。その機能を継続するために、定期的な保守管理、部品交換等が不可欠であるため、保守点検結果から中長期計画を作成し、計画的な維持管理に努めた。

●院内各所の蛍光灯316本とダウンライト469個の照明をLED化した。

<看護人材の確保・育成>

●病院実習受入は30件、延べ人数139人であった。また、看護部臨地実習受入延べ人数は2,056人、実数では211人であった。

●学校訪問は4校、合同説明会参加は11回、多摩病院における病院説明会は14回実施した。

●平成29年度入職の採用試験は28回、その他臨時で採用試験を実施した。

●病院見学受入は59人、インターンシップ受入は100人であった。

<勤務環境の改善>

●医師の事務作業負担軽減の一環としてメディカルコーディネーターを導入している。また、医療技術職・事務職員の人事評価を実施するとともに、業務改善や適正な人員配置、業務分担の見直しを行った。

●安全衛生委員会で職員の疲労度調査を実施し、環境改善の検討資料とした。環境改善に努めるための一つの手段として、職員が自由に産業カウンセラーと面談できる機会を設け、個人が抱える問題点などを早期に抽出し対策を講じた。

●病院長とのランチオンミーティングを、9月と10月は事務、コメディカル、看護部及び委託業者を対象に、2月と3月は新人及び異動者を対象に開催し、計14回、88名の職員が参加した。

●医療の安全な提供及び病院運営の効率化に資するため、5S運営委員会を設置し、5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)を推進した。

3. 評価

( )内は昨年度の数値

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
1 事業成果		(1) 事業実施による成果の測定が適切に行われているか	18	4 (4)	14.4
		(2) 当初の事業目的を達成することができたか			
2 利用者満足度		(1) 利用者満足度調査を適切に実施しているか	6	4 (3)	4.8
		(2) 利用者満足度は向上しているか			
		(3) 調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか			

【評価の理由】

1 事業成果

●入院患者の推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
延患者数(人)	107,157	105,933	107,350	111,417	108,649
実患者数(人)	8,613	8,644	9,202	9,463	9,398
1日平均患者数(人)	293.6	290.2	294.1	304.4	297.7
病床利用率(%)	78.1	77.2	78.2	81.0	79.2
平均在院日数(日)	11.4	11.3	10.6	10.8	10.6

●外来患者の推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
延患者数(人)	228,875	226,502	217,015	216,534	217,001
初診患者数(人)	41,914	41,629	38,143	38,066	36,833
1日平均患者数	844.6	835.8	797.8	799.0	806.7

●救急患者の推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
救急患者数(人)	15,742	14,446	11,851	12,458	12,591
救急車搬送患者数(人)	4,529	4,003	4,012	4,148	4,330
小児救急患者数(人)	4,247	3,954	2,779	3,008	2,861

●紹介率・逆紹介率の推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
紹介率(%)	71.5	70.4	67.9	65.4	67.6
逆紹介率(%)	54.1	53.8	51.8	54.0	54.5

\*平成26年4月1日に紹介率・逆紹介率が改正され、平成25年度は新基準で計算した。

(1) 成果の測定

診療科別の患者数、稼動実績等について、日報、月報又は年報を作成し、常に様々な角度から運営状況を把握できるように努めた。また、これらの情報について、病院長をトップとする病院長補佐会議や、院内各部門の責任者を含む診療部長会議などで毎月報告するなど、事業実施による成果の測定は適切に行われた。

(2) 事業目的の達成

多摩病院の基本的な機能として、「川崎市立病院の管理に関する規程」(以下「管理規程」という。)に定める31の診療科目に係る外来診療及び入院診療を行うこと、また「川崎市立多摩病院の管理運営に関する基本協定」(以下「基本協定」という。)において、地域における急性期医療を行う中核的な医療機関と位置付け、その果たすべき役割として、①24時間365日の救急医療、②小児救急医療、③災害時医療、④地域医療連携、⑤医療従事者の確保・育成が定められている。

これらの機能に係る平成28年度の実績は次のとおりであった。

ア 基本的な診療機能(入院、外来)

入院診療については、延患者数は108,649人で、前年度に提出された年度別事業計画書の計画を1,199人下回り(前年度を2,768人下回り)、実患者数は9,398人で(前年度を65人下回り)、1日平均患者数は297.7人で計画を3.3人下回り、(前年度を6.7人下回り)、病床利用率は79.2%で計画を0.8%下回った(前年度を1.8%下回った)。また、平均在院日数は10.6日であった(前年度から0.2日短縮した)。

外来診療については、延患者数は217,001人で計画を2,865人上回り、(前年度を467人上回り)、初診患者数は36,833人であった(前年度を1,233人下回った)。1日平均患者数は806.7人で計画を10.7人上回った(前年度を7.7人上回った)。

外来診療については、初診患者数を除いて計画及び前年度を上回って達成したものの、入院診療については、平均在院日数以外の項目は計画及び前年度を下回った。しかしながら、入院診療は前年度の実績が特に良く、過去5年間の平均は上回っていることから、基本的な診療機能としては、標準を上回る実績であった。

イ 24時間365日の救急医療

救急患者数は12,591人で前年度を133人上回り、このうち救急車搬送患者数も4,330人で前年度を182人上回った。

過去5年間の推移を見ると、救急患者の総数、救急車搬送患者数ともに平成26年度から増加傾向にあり、救急患者の入院比率も、平成24年度18%から平成28年度26%と推移しており、二次救急対応病院としての役割を果たした。

開院以来、24時間365日の救急医療体制を維持していることは高く評価できる。

ウ 小児救急医療

小児救急患者数は2,861人で前年度を147人下回った。

過去5年間の推移を見ると、小児救急患者数は減少傾向にあるが、入院比率は、平成24年度16%から平成28年度29%と推移しており、北部小児急病センターが一次救急対応、多摩病院が二次救急対応との役割分担により、二次救急対応病院としての役割を果たした。

開院以来、10人以上の医師を継続的に配置し、小児科第二次応需病院及び休日第二次応需病院(小児科)として、全休日及び毎夜間(365日)に救急対応ができる体制を整えていることは高く評価できる。

I 事業成果・利用者満足度

**エ 災害時医療**

- ・ 災害対策委員会が設置され、「緊急時対応マニュアル」、「院内災害防止マニュアル」等のマニュアル類が整備されている。
- ・ 備蓄関係では、院内に概ね3日間の食料、医薬品及び医療材料が確保されており、消費期限、使用期限等の管理も適切に行われている。
- ・ 平成28年10月15日に平成28年度の災害訓練を実施した。訓練の重点項目としては、①START式トリアージの周知と訓練、②昨年の課題であったトリアージエリアでの書類運用の確認及び③「災害対策マニュアル(第四版)」の遵守と改訂項目の抽出の3項目を中心とした。
- ・ 平成29年2月27日に多摩消防署との合同消防訓練を実施した。病棟スタッフによる初期消火、避難誘導等訓練、消防隊員らによる消火及び救助活動訓練への協力、院内各部署にて被災状況確認、本部にて被害状況等対応、多摩消防署の指導による消火訓練を実施した。

**オ 地域医療連携**

紹介率は67.6%で前年度を2.2%上回り、逆紹介率は54.5%で前年度を0.5%上回った。地域医療支援病院の承認要件である「紹介率65%以上かつ逆紹介率40%以上」の基準を満たした。  
 また、高額医療機器の共同利用の件数は、CT装置1,352件で前年度を57件下回り、MRI装置1,585件で前年度を370件下回り、超音波装置640件で前年度を14件下回り、内視鏡972件で前年度を61件下回った。  
 多摩病院は、近隣の開業医等と連携し、地域全体の医療供給体制の充実を図ることを目的のひとつとしており、平成23年2月に地域医療支援病院の承認を取得している。平成28年度は、地域医療連携システムが稼働し、地域医療連携を更に促進した。

**【具体的取り組み】**

- ・ 前年度から引き続き、診療科案内のパンフレットを作成し、地域医療関係者等に配布し、開業医訪問や交流会を行うなど、連携の強化に取り組んだ。
- ・ MR検査の予約枠について、登録紹介医限定の平日1枠を、引き続き5枠まで拡大した。
- ・ 登録紹介医からの紹介受付時間を、引き続き19時まで延長した。(再掲)

**カ 医療従事者の確保・育成**

- ・ 臨床研修医(医科)
  - ・ 基幹型臨床研修病院として、臨床研修医1年目4人、2年目23人を受け入れた。
  - ・ また、聖マリアンナ医科大学を基幹型臨床研修病院とする臨床研修プログラムにおける協力型臨床研修病院として、臨床研修医を受け入れた。
- ・ 臨床研修医(歯科)
  - ・ 独立型臨床研修指定病院(歯科)として、歯科口腔外科臨床研修医1年目1人、2年目1人を受け入れた。
- ・ 医学生、看護学生等の実習
  - ・ 聖マリアンナ医科大学、同大学看護専門学校、川崎市立看護短期大学、川崎看護専門学校ほか多くの医療従事者養成学校等から、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士、救急救命士、養護教諭等の学生実習を受け入れた。

**2 利用者満足度**

**●患者満足度調査の状況**

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
入院患者満足度調査結果	4.26	4.23	4.60	72.44	88.70
外来患者満足度調査結果	4.02	4.00	4.40	64.27	78.40

\*各年度、2～3回分の平均値

\*点数は平成26年度までは5点満点、平成27年度以降は100点満点

**(1) 満足度調査の実施**

継続的に毎年、入院患者及び外来患者に対して患者満足度調査を実施している。平成27年度から調査業務を外部委託に変更し、評価点数が5点満点から100点満点に変更となった。平成28年度は2回実施し、回答数は1回目が337枚で回収率81.8%、2回目が442枚で回収率88.4%であり、適切に実施された。

**(2) 満足度の変動**

入院患者の総合満足度は、前年度72.44点から16.26点上昇して88.70点となり、外来患者の総合満足度は、前年度64.27点から14.13点上昇して78.40点であった。入院及び外来ともに前年度を10点以上上回り、満足度が向上している。

調査結果について重点維持項目(重要度も満足度も高い重要な魅力点であり維持・促進すべき項目)としては、入院患者は安全な医療サービス、納得して治療を受けた、医師の接遇(全般)、看護師の接遇(全般)、事務の接遇(言葉遣いや態度・身だしなみ)、外来患者は納得して治療を受けた、医師の接遇(全般)、看護師の接遇(全般)、事務の接遇(言葉遣いや態度・身だしなみ)などであった。

重点改善項目(重要度が高いのに満足度が低い最優先に考慮すべき項目)としては、入院患者はプライバシーの配慮、入退院の手続き、事務の接遇(わかりやすい説明・質問や相談のしやすさ)、外来患者は安全な医療サービス、診療・予約時間への配慮、診察室・検査室の雰囲気、事務の接遇(信頼・安心できる技術、わかりやすい説明、質問や相談のしやすさ)などであった。

**(3) 調査結果の分析と向上のための取り組み**

- ・ 調査結果については、各回及び年間での集計結果に基づき、総務課で分析・検証作業が行われ、管理運営会議により院内各部門へ報告され、各部門は改善策を策定し、管理運営会議に報告されており、調査結果を満足度向上のための具体的な取組に反映した。
- ・ 入院患者の満足度が一番低い項目は、「食事について」の48.90点であった。1回目の調査結果より2回目の調査結果は1.2点悪化した。
- ・ 外来患者の満足度が一番低い項目は、「診療の待ち時間」の30.75点であった。1回目の調査結果より2回目の調査結果は5.7点改善した。

**【調査結果からの具体的な取組み例】**

- ・ 栄養部では、治療食を含めた献立、味付け、盛り付け、食器の見直し、適温管理の徹底等を課題として取り上げ、改善に取り組んでいる。
- ・ 診療科では、予約枠の見直し及び拡充、検査時間と診療時間の調整、機器操作の習熟度アップなどの改善に取り組んでいる。

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点																																																																																				
II 収支計画・実績	1 効率的・効果的な支出	(1) 適正な支出が行われているか	12	3 (3)	7.2																																																																																				
		(2) 効率的な執行等、経費削減の具体的な取組は為されたか																																																																																							
	2 収入の確保	(1) 適正な収入が得られているか	12	3 (4)	7.2																																																																																				
		(2) 収入増加のための具体的な取組が為されているか																																																																																							
	3 適切な会計手続	事業収支に関して適切な会計処理が為されているか	5	3 (3)	3.0																																																																																				
	【評価の理由】																																																																																								
<p>●決算の推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収益(千円)</td> <td>9,437,893</td> <td>9,431,485</td> <td>9,541,196</td> <td>10,178,930</td> <td>9,982,586</td> </tr> <tr> <td>費用(千円)</td> <td>9,317,762</td> <td>9,432,610</td> <td>9,857,761</td> <td>10,028,466</td> <td>10,058,475</td> </tr> <tr> <td>収支差額(千円)</td> <td>120,131</td> <td>△ 1,125</td> <td>△ 316,565</td> <td>150,464</td> <td>△ 75,889</td> </tr> </tbody> </table> <p>●経営分析</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医業収支比率</td> <td>98.7%</td> <td>96.6%</td> <td>95.2%</td> <td>100.1%</td> <td>98.0%</td> </tr> <tr> <td>経常収支比率</td> <td>101.6%</td> <td>100.0%</td> <td>96.9%</td> <td>101.5%</td> <td>99.2%</td> </tr> <tr> <td>職員給与費対医業収益比率</td> <td>49.3%</td> <td>51.0%</td> <td>51.0%</td> <td>47.8%</td> <td>50.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>●主な収益の推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院収益(千円)</td> <td>5,841,261</td> <td>5,827,387</td> <td>5,906,099</td> <td>6,244,614</td> <td>6,036,545</td> </tr> <tr> <td>外来収益(千円)</td> <td>2,543,026</td> <td>2,495,615</td> <td>2,514,378</td> <td>2,813,197</td> <td>2,840,227</td> </tr> <tr> <td>その他医業収益(千円)</td> <td>260,551</td> <td>490,254</td> <td>502,489</td> <td>502,890</td> <td>487,585</td> </tr> <tr> <td>入院診療単価(円)</td> <td>54,511</td> <td>55,010</td> <td>55,017</td> <td>56,047</td> <td>55,560</td> </tr> <tr> <td>外来診療単価(円)</td> <td>11,111</td> <td>11,018</td> <td>11,586</td> <td>12,992</td> <td>13,089</td> </tr> </tbody> </table> <p>*その他医業収益は政策的医療交付金を除く。 *診療単価は、診療収益を延患者数で除して算出したもの</p>							平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	収益(千円)	9,437,893	9,431,485	9,541,196	10,178,930	9,982,586	費用(千円)	9,317,762	9,432,610	9,857,761	10,028,466	10,058,475	収支差額(千円)	120,131	△ 1,125	△ 316,565	150,464	△ 75,889		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	医業収支比率	98.7%	96.6%	95.2%	100.1%	98.0%	経常収支比率	101.6%	100.0%	96.9%	101.5%	99.2%	職員給与費対医業収益比率	49.3%	51.0%	51.0%	47.8%	50.3%		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	入院収益(千円)	5,841,261	5,827,387	5,906,099	6,244,614	6,036,545	外来収益(千円)	2,543,026	2,495,615	2,514,378	2,813,197	2,840,227	その他医業収益(千円)	260,551	490,254	502,489	502,890	487,585	入院診療単価(円)	54,511	55,010	55,017	56,047	55,560	外来診療単価(円)	11,111	11,018	11,586	12,992	13,089
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度																																																																																				
収益(千円)	9,437,893	9,431,485	9,541,196	10,178,930	9,982,586																																																																																				
費用(千円)	9,317,762	9,432,610	9,857,761	10,028,466	10,058,475																																																																																				
収支差額(千円)	120,131	△ 1,125	△ 316,565	150,464	△ 75,889																																																																																				
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度																																																																																				
医業収支比率	98.7%	96.6%	95.2%	100.1%	98.0%																																																																																				
経常収支比率	101.6%	100.0%	96.9%	101.5%	99.2%																																																																																				
職員給与費対医業収益比率	49.3%	51.0%	51.0%	47.8%	50.3%																																																																																				
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度																																																																																				
入院収益(千円)	5,841,261	5,827,387	5,906,099	6,244,614	6,036,545																																																																																				
外来収益(千円)	2,543,026	2,495,615	2,514,378	2,813,197	2,840,227																																																																																				
その他医業収益(千円)	260,551	490,254	502,489	502,890	487,585																																																																																				
入院診療単価(円)	54,511	55,010	55,017	56,047	55,560																																																																																				
外来診療単価(円)	11,111	11,018	11,586	12,992	13,089																																																																																				
<p>1 効率的・効果的な支出</p> <p>平成28年度の収益は9,982,586千円(対前年度196,344千円の減)、費用は10,058,475千円(対前年度30,009千円の増)で、収支差額は△75,889千円となり、前年度から226,353千円収支状況が悪化した。 支出では、入院延患者数の減に伴い材料費が減となったものの、給与費が増となったことから、職員給与費対医業収益比率が前年度から2.5%悪化し、50.3%となった。</p>																																																																																									
<p>2 収入の確保</p> <p>外来収益は、対前年度27,030千円の増となったが、入院収益は、対前年度208,069千円の減となった。 保険請求に係る査定・返戻、請求漏れを縮減するため、医事課職員を中心とした勉強会を開催するなど、収入増加のための取組が行われたものの、入院延患者数が前年度から2,768人減少したことにより、入院収益が前年度から約2億円減少したため、前年度の黒字決算から赤字決算に後退している。</p>																																																																																									
<p>3 適切な会計手続</p> <p>手数料等の事業収益に関する会計処理については、基本協定等の規定に基づき、多摩病院での収納後、指定期日内に市に払い込まれ、また、その報告も遅滞なくなされていることから、適切に処理がなされたと認められる。 また、私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づく監査法人による監査を受け、「平成28年度の計算書類が、学校法人会計基準(昭和46年文部省令第18号)に準拠して、学校法人聖マリアンナ医科大学の平成29年3月31日をもって終了する会計年度の経営の状況及び同日現在の財政状態をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。」との監査報告を受けた。</p>																																																																																									

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点	
Ⅲ サービス向上及び業務改善	1 適切なサービスの提供	(1) 提供すべきサービスが適切に提供されたか	10	3 (3)	6.0	
		(2) サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか				
		(3) 利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか				
	2 業務改善によるサービス向上	(1) 業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか	5	3 (3)	3.0	
		(2) 業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか				
	3 利用者の意見・要望への対応	(1) 意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)	5	4 (4)	4.0	
		(2) 利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか				
	【評価の理由】					
	<b>1 適切なサービスの提供</b> <p>(1) 適切なサービスの提供 基本協定に定める31の診療科目に係る外来診療及び入院診療を安定的に提供するとともに、更に、各診療科において専門外来を設置し、専門的な治療の提供に努めた。 救急医療、小児医療については、安定的に医師を確保し、継続した医療提供がなされ、市民の安全・安心の確保に寄与した。(再掲) 産科医療については、分娩件数が、平成24年度 439件、平成25年度 361件、平成26年度 348件と減少傾向にあったが、平成27年度は409件と増加に転じ、平成28年度は457件と開院以来の最高件数に達した。 地域医療支援については、患者の紹介・逆紹介の推進や高額医療機器の共同利用の推進により、地域の医療機関との役割分担を進め、限られた医療資源の有効活用を図り、更には地域医療従事者を対象とした研修を実施するなど、地域医療水準の向上に貢献した。 これらのことから、提供すべきサービスが適切に提供されたと認められる。</p> <p>(2) 利用促進に向けた具体的な取組 登録紹介医用のMR検査(頭部)が2週間先まで予約が取れない状況であったことから、平成27年7月13日から実施した登録紹介医限定枠の平日16:00の1枠の15:30～16:00の3枠、16:00～16:30の2枠の合計5枠への拡大を継続した。また、登録紹介医からの紹介受付時間を、18時まで(平成26年10月1日～)から19時まで(平成27年11月1日～)に、更に1時間延長して実施しており、サービスの利用促進への具体的な取組がなされた。(再掲)</p> <p>(3) 利用者への情報提供 ホームページによる基本的診療機能、病院利用方法等のお知らせのほか、院内報「ソレイユ」を発行するなど、積極的な情報発信に努めている。また、市民の健康増進や介護知識の習得に向け、市民公開講座、ミニ市民公開講座を開催し、医療情報、介護情報等の発信にも努めていることから、利用者への情報提供は適時かつ十分に行った。</p>					
<b>2 業務改善によるサービス向上</b> <p>(1) 現状分析、課題把握と改善策の検討・実施 職員用の意見箱を設置し、様々な意見を提案できる制度を整えている。また、新たな課題が発生した場合には、毎週開催する病院長補佐会議において速やかに提案、協議できる体制も整えられており、業務改善に向けた現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われた。</p> <p>(2) 業務改善の効果 患者満足度調査結果においても満足度の向上が見られたことから、接遇研修の実施などによる業務改善に一定の効果があつた。</p>						
<b>3 利用者の意見・要望への対応</b> <p>(1) 意見・要望の収集方法 毎年、継続的に入院患者及び外来患者に対して患者満足度調査を実施しており、調査票には自由記述欄を設け、多様な意見の把握に努め、集計結果を院内に掲示し、患者、家族等へのフィードバックを行った。更に、院内6箇所意見箱を設置し、随時、利用者が意見・要望等を病院に伝えられる環境を整備している。 また、医療関係者、学識経験者及び市民委員を構成員とする川崎市立多摩病院運営協議会(川崎市病院局主催)に病院長、副院長、事務部長、総務課長が出席し、委員から病院運営等に関する意見を聴取した。(再掲) これらのことから、意見・要望の収集方法は適切であったと認められる。</p> <p>(2) 苦情・意見に対する対応 意見箱により患者等からいただいた意見・苦情等については、随時総務課で回収し総務課長から病院長まで報告した後、迅速に関係部門にその回答と改善策の検討を依頼した。この取組により、病棟の入浴設備に転倒防止の手すりの設置、外来エリアのトイレに杖をかけるフックの設置などの対策を講じた。 また、患者満足度調査によっていただいた意見については、総務課における分析・検証作業を経て、管理運営会議により院内各部門へ報告され、各部門において課題として把握し、患者満足度向上に向けた今後の取組を策定し、順次改善を実施した。この取組により、外来待合スペースに患者向けポスターの設置、院内巡回回数増、マナー集配布による職員への周知、回診時間の調整などの対策を講じた。 これらの取組によって、利用者からの苦情や意見に対しては、迅速かつ十分な対応がなされたものと認められる。</p>						

分類	着眼点	配点	評価段階	評価点	
IV 組織管理体制	1 適切な人員配置	6	4 (4)	4.8	
	2 連絡・連携体制				
	3 委託管理				
	4 担当者のスキルアップ	6	4 (4)	4.8	
	5 安全・安心への取組	(1) 医療事故を未然に防止できる適切な安全管理体制となっているか	6	4 (4)	4.8
		(2) 緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか			
	6 コンプライアンス	2	3 (3)	1.2	
	7 職員の労働条件・労働環境				
8 環境負荷の軽減					
<p>【評価の理由】</p> <p><b>1 適切な人員配置</b></p> <p>医療法等に定められている医療従事者を配置するとともに、防火管理者や衛生管理者などの施設管理に係る有資格者、あるいは麻薬施用者など病院運営に係る有資格者が適正に配置されるとともに、医師等の異動等に伴う医療法、健康保険法等の変更の届出も適切に提出された。また、「川崎市立多摩病院の管理運営に関する細目協定」に規定する他大学出身の医師確保(努力規定)についても、基準である全医師数の3分の1以上の医師を確保した。</p> <p><b>2 連絡・連携体制</b></p> <p>救急災害医療センターにおける各診療科医師の当直応援体制が構築されているとともに、院内各部門の責任者で構成される診療部長会議を毎月開催し、院内における情報共有や協議の場が設けられるなど、連絡・連携体制は確保されていた。</p> <p><b>3 委託管理</b></p> <p>定期的な報告書(月報)に加え、警備や清掃、施設管理に係る委託業務については、毎朝、委託先の責任者から前日の業務報告を受けるとともに、物流(SPD)、中央滅菌などの病院運営に係る委託業務については、毎月、委託先業者との定例連絡会を開催し、業務の履行が確認されており、委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行について適切な監視・確認が行われた。</p> <p><b>4 担当者のスキルアップ</b></p> <p>専門看護師・認定看護師の育成のための支援体制が構築されているほか、全職員を対象として、医療安全、感染対策、危機管理、防災対策、診療報酬、緩和ケア、NSTなどの研修会を年間22回開催し、延べ1,820人が参加するなど、病院職員のスキルアップに向けた取組を実施した。</p> <p><b>5 安全・安心への取組</b></p> <p><b>(1) 安全管理体制</b></p> <p>医療安全管理室を組織し、専従の看護師2名(医療安全担当1名、院内感染担当1名)を配置するとともに、医療安全管理委員会(毎月開催)、セーフティマネジメント委員会(隔月開催。院内各部門に医療安全に係る責任者を配置)、院内感染対策委員会(毎月開催)が設置されている。「医療安全管理指針」及び「医療安全管理規程」が整備され、かつ適宜見直しも行われている。また、職員を対象とした研修会も開催(医療安全管理室又は院内感染対策委員会主催。なお、研修内容から必要と判断されるものはパート・委託職員も対象とした。)されている。更に、医療安全に対する基本的な考え方を周知、徹底するため、携帯サイズの「職員ポケットマニュアル」を作成し、全職員に配布されている。</p> <p>平成28年度は、職員ポケットマニュアルの改訂(初動情報の掲載及びサイズ縮小化)、輸血コードブルーの運用開始、異物混入対策としてカート類の施設管理の徹底などを実施した。</p> <p>これらの取組によって、安全管理に対する十分な体制が構築されている。</p> <p><b>(2) 関係機関との連携体制</b></p> <p>多摩区、宮前区及び麻生区の事業所、学校法人、警備管理関係者(警察署、消防署等)など11団体で構成される「警備連絡会」(隔月開催)に参加し、情報交換を行った。また、多摩区内9箇所の訪問看護ステーションと「多摩区・病院と在宅ケアネットワークづくりを目指す会」を運営し、定例会と事例検討会、講演会を開催し、関係機関との連携体制の構築に努めた。</p> <p><b>6 コンプライアンス</b></p> <p>医療法や健康保険法、あるいは労働基準法等に基づいた適切な運用がなされた。また、個人情報の取り扱いに当たっては、基本協定に基づき「川崎市個人情報保護条例」を遵守するとともに、「川崎市多摩病院個人情報保護方針」及びその取扱いに関する文書を院内各所に掲示するなど、コンプライアンスに向けた取組が適切になされた。</p> <p><b>7 職員の労働条件・労働環境</b></p> <p>病院管理者(病院長)及び衛生管理者を中心として、関係法令に基づき適切な運用がなされるとともに、全職員を対象としたストレスチェックの実施や夜勤看護体制の見直しなど、労働環境の維持・向上に向けた取組が行われるなど、適切な運用がなされた。</p> <p><b>8 環境負荷の軽減</b></p> <p>日々の環境条件等によりクーリエレーションシステムの運転を行っているほか、積極的に不要不急の照明の常時消灯を行うとともに、昨年度に引き続き照明器具のLED化を推進するなど、効率的、効果的なエネルギー使用に努めた。</p>					

( )内は昨年度の数値

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
	1 施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3 (3)	3.0
	2 管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか			
	3 清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか			
	4 警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	5 外構・植栽管理	外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
	6 備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか			
V 適正な業務実施	<b>【評価の理由】</b>				
	<b>1 施設・設備の保守管理</b>				
	施設・設備の運営及び保守管理業務については専門業者に委託されているが、委託業務実施状況等についての報告が、日次及び月次で適切になされ、委託業者との定例連絡会も開催されており、施設・設備の保守管理については、適切に実施された。 また、開院から10年を経過し、経年劣化が進んでいる病院施設については、適切なメンテナンスが実施された。 更に、開院以来の病院敷地内禁煙の管理も徹底されている。				
	<b>2 管理記録の整備・保管</b>				
	病院運営に係る各種の業務日誌、あるいは設備・医療機器等に係る点検記録・修繕記録等は適切に作成、管理されている。				
	<b>3 清掃業務</b>				
専門業者に委託されているが、委託仕様書どおりに、清潔な美観と快適な利用環境の維持・確保が適切に行われた。					
<b>4 警備業務</b>					
専門業者に委託されているが、委託仕様書どおりに、施設内及び敷地内の警備は適切に行われた。					
<b>5 外構・植栽管理</b>					
専門業者に委託されているが、委託仕様書どおりに、外構・植栽管理は適切に行われた。					
<b>6 備品管理</b>					
開設時に市が購入した医療機器等と、その後指定管理者が購入した医療機器等は、備品シールと台帳により区分され、それぞれ適切に管理されている。					

## 4. その他加点

( )内は昨年度の数値

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
その他加点	市の政策課題への取組	・第三者へ一部の業務委託を行う際の市内中小企業者の受注機会の確保・拡大 ・障害者の法定雇用率を超える雇用 ・殿町地区で実施するリサーチコンプレックス推進プログラムへの協力	5	3	3.0
	<b>【評価の理由】</b>				
・主な外部委託業務10業務のうち、6業務につき市内中小企業者に委託している。 ・指定管理者が雇用している障害者数は70.5人で、実雇用率は2.02%であり、法定雇用率2.0%を0.02%上回っている。 ・来年度実施予定の「川崎市における高齢者の暮らし方と健康に関する学術調査:The Kawasaki Wellbeing Project」の準備作業を進めている。					



## 5. 総合評価 ( )内は昨年度の数値及び評価

評価点合計	72.8(71.0)	評価ランク	B(B)
-------	------------	-------	------

## 6. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

多摩病院の設立経緯が、川崎北部保健医療圏の病床数の不足及び救急医療体制の不備に対処するため、3番目の市立病院として整備することにあつたことから、救急医療の提供は、多摩病院に与えられた最も重要な医療機能である。勤務医不足など厳しい環境下において、開院以来、24時間365日の救急医療体制を堅持していることは、市民の安全・安心の確保に大きく寄与している。

小児救急医療については、小児科第二次応需病院及び休日第二次応需病院(小児科)として、全休日及び毎夜間(365日)における小児救急搬送患者の受入体制を維持しており、市内の小児救急医療に大きく寄与している。

計画段階から、多摩病院は、近隣の開業医等と連携し、これを支援しながら地域全体の医療水準の向上を図ることが、大きな目的のひとつであった。開設当初から、地域医療連携室を中心に周辺医療機関との相互理解及び連携強化に努め、平成23年2月には地域医療支援病院の承認を受けた。紹介、逆紹介などの手続きの迅速化・簡素化を目的に、ICTを活用した地域医療連携システムを導入し、高額医療機器の共同利用や、地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実施など、地域医療連携を推進している。

全国的に産婦人科医師が不足し、産科の休止や分娩の取り扱い中止などが相次ぐなか、医師を養成している聖マリアンナ医科大学においても産婦人科医師の確保は容易でないと考えられるが、常勤医師4人のほかに大学からの応援医師の協力などを得て、産科のほか婦人科の診療や手術なども継続しており、市内の分娩需要に対応している。

## 7. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

地域の中核病院として、引き続き急性期医療や救急医療に積極的に取り組み、災害拠点病院としての役割を担うほか、地域医療支援病院として地域医療水準の向上に寄与することにより、市立病院に対する市民の大きな期待に応えること。

市民が安心して安全な医療を受けられる環境の整備を推進し、医療事故の防止に全力で取り組むこと。

高齢者の増加に伴い増大する救急需要に対応するため、救急搬送患者の受入れ拡大に努めること。

施設の有効活用の観点からも、患者実人数の増加による病床利用率の向上に努めること。

施設の長寿命化を踏まえた適切な施設の維持、管理を引き続き実施するとともに、医療需要に基づいた確かな医療機器更新を推進すること。

### ◎ 評価方法について

- ・ 評価は、各評価項目ごとに配点され合計で105点となっている。
- ・ 評価段階については、次のとおり5段階となっており「3」が標準となる。
- ・ 評価点は、配点に、評価段階ごとに決められた加点割合を乗じて算出される。
- ・ すべての評価が標準の「3」である場合は、 $105点 \times 60\% = 63点$ となる。

評価段階	加点割合	評価基準
5	100%	仕様書等を大幅に上回り、非常に優れた成果を上げている。
4	80%	仕様書等を上回る業務運営が行われている。
3	60%	仕様書等どおり適正に業務運営が行われている。
2	40%	仕様書等を下回る業務運営が行われている。
1	0%	不適切な業務運営が行われている、又は履行されていない。

※仕様書は、基本協定に読み替えるものとする。

- ・ 総合評価は、各評価項目の評価点の合計値から、次により評価ランクが決定する。

評価ランク	適用基準(評価点合計)
A	総合評価の結果、特に優れていると認められる。(80点以上)
B	総合評価の結果、優れていると認められる。(70点以上80点未満)
C	総合評価の結果、適正であると認められる。(60点以上70点未満)
D	総合評価の結果、改善が必要であると認められる。(50点以上60点未満)
E	総合評価の結果、問題があり適切な措置を講じる必要がある。(50点未満)